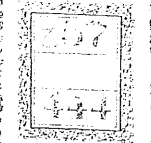


普通
小學作法書

飯田正宜校閱
增山守正編輯

卷之貳

館藏書會書教本日大			
六	二	二	二〇
册	號	架	函



飯田正宣校閱
增山守正編輯

卷之貳

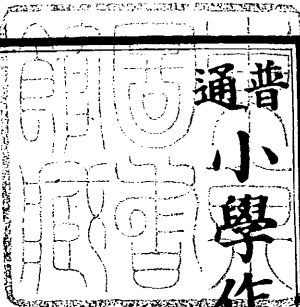
普通小學作法書

版權所有

集英堂藏版



明治十九年三月二十三日内務省贈付



普通小學作法書卷之二

飯田正宣校閱
增山守正編輯

第一

○人の相對して坐する時其間を通行するハ無作法あり。

○室内に於てハ人の前を通行せざして其後を通行せべし。

- 室内よて人の前を通行せざることを得ざる時ハ必挨拶して通行せべし。
- 室内を通行するハ其前ハ物ある時之を踏み越ゆることおかれ。
- 通るべき道ハ物あらバ之を傍小置き直して通るべし。
- 走べて席ふつくときは容を正しくせべし。

- 座敷に入るにはしたを視て入り座中を視まはせべからず。
- 人の家ハ行きて其家人のゆるさがる所ハ入るべららば。

第二

- 常ハ衣服をととのへて身の容を正しくせべし。
- 衣服亂れて身の容正しからざれば。

人よ嫌ひる。

○人椅子よ倚り。又ハ立つときは。自分ハ腰をかぐめて。禮をすべし。

○己より貴き人の上よ坐するハ。無禮かり。

○人の家に至るときは。まづとりつぎを請ひ。案内を得て入るべし。

○毎朝はやく起きて。庭をはき。室内を

きよくすべし。

○日暮るれば。はやく戸志まりをすべし。

○たべて談話する時ハ。つとめて人の氣よ障らぬ様。物静ふすべし。

第三

○毎朝食事終らむ。書物石盤などを取揃へ。學校よ出づる用意をすべし。

○學校より行くときは途中より於て遊び戯れかどして時間を費すべからず。

○故ありて出校の時間より後れたるときは其由を教師より告げてさしづを受くべし。

○書物筆硯等をすべての器具を取亂すべからず。

○器具の用ひ畢らば元の處にかへ

しねくべし。

○我をとふ人あるときひさしくまたしむるは無禮なりすみやかにいでし

面會をべし。

○人と物を分つときは多きかたをとらんとし。又よきものをとらんとするはいやしき心なり。

第四

○途中よて。車馬かどよ遇ふときい。道
をゆづりて通行すべし。

○雨天よ途を行くよは。衣服を汚さぬ
様注意まべし。

○途中よて。衣服手足等を汚さば。其ま
まにて。座よあがるべからん。

○人の手紙。又い書物かどを見るところ
へ。首を出して見るべからん。

○人よ物を進むる時い。跪きて進むべ
し。

○客のある時は。かげよて。耳語まべか
らん。

○垢つきたる衣服は。身に害あるのみ
からず。人よ對して失禮なり。

○うつくしき衣服を。きたりとして。人よ
ほこるべからん。

第五

○人と對して坐るときは。伸び欠び
まべからば。

○人と對して坐るとき。物よ寄りか
かり又ハ懐手するハ。無禮にして且見
苦しきものあり。

○雨天のときは。傘履きものを能く揃
へ置きて。混雑せざる様注意をべし。

○雨天よ傘かくして。歩行するハ。宜し
からば。

○學文は。智を開き身を修むる法を教
ふるものかまば。出精して學ぶべし。

○學校よ昇りては。教師の指揮よ従ひ。
謹みて教を受くべし。

○朋友よ訪れし時ハ。之を迎へ。先導し
て。座よ導くべし。

○訪ひし人の歸る時ハ。貴賤とかく。其出迎へし時の如くすべし。

第六

○教を受くるときハ。我儘なることを言ふべからず。

○教師の許可を得ずして。みだりし教場を出入るべからず。

○毎朝學校より出でたる時ハ。先教師に

禮し。又他の人にも禮をべし。

○下駄草履かど。はき物を亂だし。又他人のものをはく等のことあるべからず。

○人の家に入りて。あちこちを見廻し。又隅々を窺き。斜に視るなどハ。甚ころし。

○人と相争ひ喧嘩するハ。見苦しき事

かり。
○聲高らかよ人を叱るも亦見苦しき事あり。
○人の所持する物をうらやみ乞ふいやしき事あり。すべからば。

普通小學作法書卷之二終

明治十九年二月廿五日版權免許
同 年三月 出版

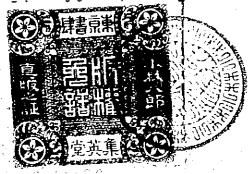
定價金五錢

編輯人 京都府士族 増山守正

神田區駿河臺鈴木町拾六番地

出版人 東京府平民 小林八郎

日本橋區通旅籠町拾番地



東京日本橋區通旅籠町拾番地 集英堂本店
栃木縣下宇都宮太王町四拾番地 全第一支店
發兌 鳴根縣下松江白瀧本町四拾五番地 全第二支店